

第2回 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理委員会議事録(未定稿)

日 時 平成28年3月16日(水)

午後7時～8時30分

場 所 田無総合福祉センター第3会議室

出席委員：石橋尚、岩崎智之、榎本めぐみ、熊田博喜、畠山昭裕、三輪秀民、吉田真也

欠席委員：伊藤正子、土方孝一郎

(敬称略、五十音順)

事務局：池田正幸(事務局長)、齊藤睦(総務課長)、丸木敦(福祉活動推進課長)

浜名幹男(福祉支援課長)、鶴野浩至(総務課長補佐兼法人運営係長)

小平勝一(福祉支援課長補佐兼権利擁護係長)、石井一雄(地域福祉推進係長)

小口浩司(法人運営係主任)

<配布資料>

資料1 第1回 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理委員会議事録(未定稿)

資料2 地域福祉活動計画推進部会活動状況表(各部会分)

資料3 平成26-27年度 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理表

<委員長挨拶>

本日は、各部会からの報告を踏まえ、進行管理表の活用について検討し、実際にチェックをしていけるようにすすめていきたい。たくさんのご意見をいただきたい。

1. 前回会議録の確認

事務局より、前回議事録の訂正箇所を説明。

質問なく、第1回第三次西東京市地域福祉活動計画進行管理委員会議事録(未定稿)を(確定稿)とする。

2. 各推進部会の取り組み(進捗状況)及び今後の予定等について

各委員から、資料に沿って、これまでの活動内容について報告を行なう。

<居場所づくり部会>

委員：平成26年度は視察をとおして様々なノウハウを積み重ね、平成27年度は実際に地域福祉活動に取り組んだ。

具体的には、フラワー通りにある地域活動拠点「ふれまちルーム」で活動を開始した。まずは、場所を知ってもらうことを目的にフリーマーケット(6月14日)を開催した。収益は3万円余りあり、それを以降の活動資金とした。その後も、7月には七夕会、8月には夏まつり、12月にはクリスマス会などの行事を開催した。

平成28年2月には、緑町に社協の新しい地域活動拠点「ほっとハウスみどり」がオープンし、活動スペースが「ふれまちルーム」より広いということもあり、利用することになった。2月14日の見学会以来、すでに5回の活動を実施して

いる。

平成 28 年度からは本格的に居場所づくり活動に取り組む予定で、プロジェクトを進めていく課題としては、1つ目に「人」、2つ目に「金」、3つ目に「場所・もの」、4つ目に「情報」が挙げられている。いずれも苦戦しているが、3つ目の「場所」については、「ほっとハウスみどり」の利用が始まったことで、具体的な活動に取り組むことができるので、そのノウハウをまとめてみたいと考えている。平成 28 年度は「よってらっしゃいプロジェクト」を週 1 回、水曜日 13:30～16:00 に実施を予定しているが、コアメンバー 4 人ですすめていくのは正直しんどい。スタッフ集めや車いすの対応、段差の解消など解決すべき問題も多い。これらの活動についてはマニュアル化を進めたいが、やはり 4 人では広がりを持たないし、活動に限りがある。これまで「ふれまち」でやってきたことも合わせてノウハウにしていきたい。

委員長：それぞれの取り組みごとに確認をしていきたい。「ほっとハウスみどり」は、社協の拠点の一つか。

事務局：西部圏域の緑町 2 丁目に開設した。今回の場所は元々貸家で、以前に陶芸工房があった。移転して空き家になっていたが、大家さんも福祉に貢献したいとの思いがあり、部屋の改修もしてくれた。

委員長：部屋の構造も複雑ではないとのこと。スペースもあり、遊ぶところもある。いろいろな活動がやりやすいのではないかな。

委員：「ふれまちルーム」の取り組みの中で、単発のイベントに参加していた人の客層は高齢者が多かったが、外に出て声掛けをすることによってお子さんの参加も多かった。

「ふれまちルーム」はキャパシティも狭いので、外に出て声掛けをしたが、表に出て声掛けすることは大切だと感じた。「ほっとハウスみどり」では、下校中の子どもたちに声掛けしている。大事なことだと思う。

委員：下校時の通り道で毎週行うことで、活動も定着するのではないかな。

委員長：ロケーションとして登下校の道沿いなので、安心できる場所として広まってくのではないかな。立地場所の特性によって展開を変えていっても良いと思う。チャレンジする部分としては面白い。

委員：参加者の中には、お手伝いしてもらえそうな方もいるので、そこを広げていきたい。また、同じような活動をしている活動者などと連携をして、参加者やサポーターを増やしていきたい。

委員長：是非活動を継続していつてもらいたい。詳細については進行管理シートに落とし込んでいきたいと考えている。

<人材部会>

委員：部会員は 4 人。早く活動をスタートしたかったが、初めに丁寧な討議の時間を多くとった。

地域の人材リストについては、まず自分の知っている方を48名リストアップし、その後公募して、その応募者12組を加えて「地域のタレント」をリスト化した。また、常時公民館や市民会館等で行われている取り組みの見学を行い、人材の発掘を進めていった。

平成27年度は、まず部会が主体となって行事を実際に企画し、開催してみることもなった。

具体的には、88歳の方に戦争体験について話しをしていただいた。地元の中学校や高校の先生方もお誘いした。お話いただいた方も、今回のことで自信を持てたようである。東京都が登録する戦争語り部にもなっている。才能ある人が地元にはたくさんいるので、その人材を部会では活かしていきたい。

1回目のイベント終了後、討議を続けて、地域の人材発掘を行なう「スカウトキャラバン」を実施した。ボランティアの応募者が12組あり、担当者がそれぞれの活動の様子を見学し、特に公民館主催のイベントを手分けして見学している。応募者全員が活動に結びついていないが、実績をつくることは必要と感じている。

2回目の企画は先週行った。サービス付き高齢者住宅の誕生会と、地元小学校のお母さんたちの合唱サークルの歌の活動をつないだ。合唱サークルの特徴は、全部の曲に振りが入っており、衣装も手作りしていて、楽しそうに活動している方々であった。突然の活動依頼となったが、快く承諾していただいた。

当日は、31名の利用者、職員7名、利用者のご家族2組が参加された。入所者の3分の1が認知症の方で、施設長さんから「利用者がみんな一緒になって参加し、手拍子して生き生きしていたことに驚いた。普段動きがない方も楽しめていた。こうした取り組みを今後も検討したい」とのことだった。出演者と施設の方にとって良い時間を持つことができたと思う。

現在は、出演者を絞ってリスト化した人をチェックしている状況。施設の受入れ状況も調べていて、希望先が15か所あった。市内の大手施設のみの調査であったので、規模の小さな施設にも対象を広げていきたいと考えている。出演者もやりがいがあると思う。この取り組みを糧にしてステップアップしていきたい。

平成28年度は、相当数の希望が予想される。出演者とのスケジュール調整も行っていきたい。

委員長：6月にリストアップした「地域のタレント」の48名はどのような方なのか。

委員：活動内容もレベルも様々。声掛けから2年経っていたので、待ちくたびれていた人もいた。忙しい人もいるので、日程が合わなかった方もいる。

また、施設の調査を30件行ったが、何かしらの取り組みをしている施設が8割あった。ただ、企画がマンネリ化しているため、人材部会の取り組みは良い刺激になるのでは。

委員長：居場所づくり部会でも提案があったが、取り組みについては、連携して双方向でできると良いと思う。施設での展開の場合は一芸ある方が良いのかもしれない。一方でささやかな取り組みの中で力を発揮できる方の発掘もできると良いのでは。

委員：地域の人材と言われる中には2つの意味合いがあると思う。1つは、公演をされるタレント人材、もう1つは、居場所の中で、お茶出しやお話し相手などのスタッフ的な人材。どちらも大切にしたい。

委員長：例えば、コーヒーを入れるのが上手な方もいる。それぞれの得意な分野を生かせればと思う。ささやかな居場所での活動も視野に入れて、部会で検討していただきたい。

<情報部会>

委員：情報部会では、情報を通じて人と人のネットワークを作り、この「つながり」という資産をストックしていくことに取り組んでいる。この取り組みには3つの目的があり、1つ目は「アナログな情報の再活用」、2つ目は「デジタルな情報伝達手段を活用」、3つ目は「そこに流す情報をつくる」こと。

フェイスブックやツイッターなどのデジタル媒体の情報については後でも良いのではないかと考え、今のところは動いていない。

アナログな情報の活用については、隣近所とのネットワークづくりの方法について検討した。

平成26年9月に活動をスタートして、平成27年度に実施する具体的な活動内容について話し合いを行った。まず欲しいのは、企画に参加してくれる人ということで、大学生に協力を求め、武蔵野大学と日本社会事業大学とともに活動を行った。平成27年度には何らかの成果を出すことを念頭に、テストトライアルとして「回覧板を回す」ことができた。今回実施してみたことで課題も見えてきたので、それについては来年度検討していきたい。

委員長：意見、質問を受け付ける。

委員：このキャラクターの回覧板はどこに回したのか。掲示板への掲示はしているのか。

委員：犬のキャラクター（快RUNワン）は、学生の企画で製作した。学生さんの意見を取り入れることで、地域や社会に出ていただくという教育的視点も持っている。掲示板への掲示については行っていない。

委員：田無地区には、回覧板を回す地域が2、3あると思う。他地区では、地域の掲示板を回覧板の役割として考えているところもある。地域ごとに掲示しているものが違っているのが現状だと思う。こうしたキャラクターがあると掲示物を見られるのではないかと。今後は、掲示板も活用すべきではないかと思う。回覧板を使っている地域は少ないので、どこに掲示板があるのかも調べてほしい。

回覧板は新規転入者に断られることが多い。回覧板を活用しない理由としてゴミが出てしまうことも理由にあげられている。

委員：掲示板は各町内に設置していると思うので、今後利用していくのは良いと思う。

委員：回覧板に取り組んでみての課題とはどのようなことか。

委員：今回のエリアは、回覧板に入れる情報が見つけれそうだとということ、すでに回覧板が存在していること、協力的であったことなどを踏まえて、成功しそうな地域と

して田無町第二区町内会を選択した。

課題としては、「ターゲットを絞り込んだ方が良かった」ということ。今回は青年会議所のご紹介もあり飲食店等で使えるクーポン券を取り入れた。町内会に加入することで、町内会費の1,000円を払ってもお得になると唱ってみたが、実際にクーポンは使われたものの町内会には加入してもらえなかった。

また、日中地域に居て、誰かのために活動できる人は子育て中の人なのではということも出ており、ターゲットを絞り込んだ方が良かったのではと考えている。

また、今回のエリアで実施してみて、今でも回覧板が回っている地域では、回覧板を回す目的の一つとして高齢世帯が訃報を回すことにあるように感じられた。当地区ではマンションが多く、日中不在の人も多いため一時的な居住者との考え方もできる。

情報の内容も「子育て情報」や「お金のメリット」など、どこに主眼を置いたら良いのかを考えていきたい。

委員：どのようなイメージで進めていったのか。回し方はどのように考えていたのか。

委員：今回は既存の回覧板を利用した。初めに、「このような回覧板を始めます」とエリア全戸にチラシを配布して広報し、次に、町内会の回覧板を活用して実施した。

ターゲットを絞り込み、「若い人がこんな情報があるなら自治会に入りたい」と思ってもらえるように検討すれば良かった。また、すすめるにあたって、ふれまちやほっとネットなど、既存のネットワークを活用していなかった。

部会員の中に学童保育を受託しているNPOの方もいたのに、そうしたつながりも活かしきれていなかったので今後の課題になると思う。

委員長：社協の既存のネットワークについては、居場所づくり部会なども利用できたら良かったと感じた。ふれまちやほっとネットなど、今後いろいろと考えていけるのではないか。次年度に向けて考えても良いのではないかと思う。

その他、ざくばらんに意見を出してもらいたい。

委員：社協のネットワークとしては、地域福祉コーディネーターが4名配置されているが、居場所づくり部会では、活動する拠点の地域にもとづいて西部圏域担当から情報ももらっていた。

地域包括支援センターのソーシャルワーカーからは、今後高齢者サービスの環境が変わる中で、様々な事業で引き継いでもらうことができないかという問合せもある。施設の職員にも自分たちの活動を見てもらって、利用できる人があれば紹介してもらうことも考えていきたい。

実際に、現場に足を運んでもらったことで、「部屋の中の段差をなくす」、「車椅子が入れるような工夫について」などのアドバイスをもらうことができた。社協職員にも伝えているが、社協以外にも連携を図っているところ。

委員長：様々なネットワークを活用してもらいたいと思う。

3 進行管理表の作成について

委員長：これまでの報告で、ある程度の情報は共有できたのではないと思う。整理をして共有化していきたい。ここからは、進行管理表の取り扱い方法について検討したい。説明を事務局からお願いしたい。

事務局：資料3について説明する。

これまでもお伝えしたが、「評価」については、活動に対してダメ出しをするものではないと考えている。

進行管理表は柱建てごとに作成し、内容は、Plan(プラン)－Do(ドゥ)－Check(チェック)－Action(アクション)というプランのサイクル(以下PDCA)を表している。

目標値は活動計画に記載されている内容を記載しており、「市民ができること」「社協が担うこと」「市に期待すること」など、それぞれの枠を設けて記入するようになっている。

評価欄は推進部会の自己評価となる。総合的な評価としては、今後どのように進めていくのか、改善できることはなにか等を記載していくようにしたいと考えており、第2期の進行管理表と比較してもかなりシンプルになっている。

委員長：できれば次回から表に落とし込んで、何ができたのか、何を取り組むかなどの進行管理を進めていきたい。書き方はどのようにまとめていくのか。

事務局：具体的な活動内容について柱ごとにまとめて記入するイメージを持っている。

委員長：「PDCA」という大きな枠組みや、「市民」・「社協」・「市」という枠組みについてはどうか。また、評価基準について、例えば何をもちょう50%なのかなど、常に議論になると思うが、やってみないとわからない部分はある。主観的な評価で良いかと思う。

シートについても構造や実際に書き込めるかどうかなどの疑問もあると思うが、まずはやってみて進めていくので良いのではないかと思うがいかがか。

委員：内容的にはポジティブ思考で良いと感じた。お金のことなどを気にする方もいると思うが、この様式で良いと思う。

用紙の記入は各委員がするのか。

事務局：部会員さんと事務局と一緒に、Do(ドゥ)－Check(チェック)の部分は記入していきたいと考えている。

委員：担い手ごとに書いた方が分かりやすい。市の部分は誰が書くのか、社協の部分は誰が書くのかなど、誰にどういうことを書いてもらうのが明確になっていた方が良いと思う。

委員長：いろいろと相談しながら書いていくのか。

事務局：進行管理表の各項目に記載されている内容は計画に記載されている内容を示している。今後は各部会で活動を進めていく中で変更していくこともあるものと思われる。

委員長：市民ベースで社協にサポートしてもらって書いていけば良いのではないか。

事務局：市民の立場において取り組みについて書いていけば良いと思う。

委員：地域福祉活動計画と地域福祉計画は連動していると思う。基本的には同じ方向を向

いている。市に対しては、これまでやっていないことを期待されてしまうのかなとも感じた。次の計画にも活かしてしていければと思う。

委員長：市に期待することも、しっかり書いてもらって大丈夫ということで、市にもこの内容を引き継いでいただければ良いのではないか。

委員：誰がどういう立場で書くのかについて、進行管理の部分できちんとクリアにしておいた方が良いと思う。

プロジェクトをボランティアベースで進めているが、誰がどのように進行管理を評価するのかを決めておいた方が良い。

委員長：何をもって評価するのかということか。

委員：以前までの進行管理では、計画案は社協が作成し、それを進行管理委員が評価していた。今回はボランティアベースで計画を作ってきたので、そのうえで、進行管理のチェックまで自分たちで行うのかははっきりしていない。

誰が責任を持って評価するのか。自己評価の「自己」とは誰なのか。

事務局：基本的には各部会で年次計画を立てて、計画も年度ごとにどのように進めていくのかを決めると思う。

その中で、どのように考え、どう取り組んできたか、これからどう考えていくのかなど、各部会で考えて実施したものについては自己評価をしていった方が良いのではないかということ踏まえて提案した。

Do(ドゥ)と Check(チェック)の部分では、各部会においてどこまでできたのかについては話されていると思う。

また、Action(アクション)については、今後どのように進めていったら良いのかを進行管理委員会で検討し、アドバイスの部分になると思う。

何パーセント出来たのかを聞いて評価することが主ではない。Do(ドゥ)と Check(チェック)の部分では、部会員さんと事務局とで一緒に作るのが良いと思う。

委員長：たぶん、5年間、活動に取り組んでいく中で、「住みやすい街づくり」や「地域のつながりづくり」につながっていけば良いと思う。具体的な実施率や数値はそれほど重要ではなく、新しい何かにつながれば良いという発想ではないかと思う。今回の進行管理委員会は、活動内容の細かいチェックが目的ではない。地域を良くするために取り組んでいることは、進めば進むだけ地域が良くなると考えられる。取り組みが進んでいく中で、「もう少しできたらいいね」くらいの意見交換のツールとしてこの進行管理表を利用していきたい。ここで議論をするための情報を出してもらいたいと考えている。

委員：数値目標について、居場所づくり部会では、「最終年度までに8か所」と記載されている。ハードルが高すぎて、あまり数値にこだわると難しい。

数値よりも居場所をつくるまでのプロセスの方が大切だと思う。

委員長：居場所を何か所作るかについては、計画作りの中で指標を設けたが、縛られる必要はない。取り組みを実施しているうちに、いろいろな課題が出てきたら、翌年に取り組んでみたら良いと思う。気がついた所は、随時直した方が良いと思う。

委員：各委員さんは、自分の取り組み部分は分かっていると思うが、私は具体的なイメージが持っていない。ビジュアル的なものが何もなければ、「8か所作れば良いんじゃない」と思ってしまうかもしれない。

活動の写真など、はっきりとこんなものが出来ましたと示していただければ、「こういうものが見つかるまでは良いのでは」とも言える。

居場所は数の多さではないと思う。居心地が良いことが大切。きれいとかではない。うちに来る孫たちは「自分たちが掃除もするから、いられるだけで良い」と言う。そう言うものだと思う。

子どもたちは、玄関を開けた時に「おいで」って聞こえるような気がすると言っていた。そういったところは、ビジュアル的に見ないとわからないので、ほめることも、評価することもできない。

委員長：活動状況を見に行くのも方法ではある。「これです。」というものを示してもらった方が良い。まさに回覧板でリアリティーが出てくる。そうしないと、どのようなディテールかはわからない。実際に見てわかるというのはあると思う。

委員：社協だよりの3月1日号に「ほっとハウスみどり」の活動状況が写真で紹介されているので、それを見るとイメージは持ちやすい。

次回の委員会では、活動状況が見えるような資料を作っていただきたい。

事務局：毎年2月には各部会で次年度計画を作るイメージを持っており、本来であれば2月にはこの表を使用して進行管理を行い、次年度計画の参考にしてもらいたいと考えている。

アクションプランについても、計画を立てた当初の数値は、かなり厳しいプランになっている。推進部会の皆さんに計画の修正も含めて、良い方向に持って行ってもらいたいと考えている。

活動状況とその時に出てきた課題によっては、計画どおりに全部当てはまらなくても良いかと考えている。目標値が違って、プロセス進捗状況の報告にもなると思う。

委員長：まずは表を使ってみてほしい。これだけだと良くわからないので、添付資料、例えば登録者の登録内容、活動場面の写真、地図などの具体的な資料を付けてもらうことで、イメージが膨らむと思う。そのうえで意見交換をしていきたい。

場合によっては、実際に見に行きましょうということになることも発展的に良いと考える。今回は意見交換をしていきたいと考えている。

委員：人材部会としては、施設側、会場側の意見もつけてほしいと思う。

事務局：様式を作ってコメントをもらえるような工夫をしたい。委員以外は活動を見ていないのでイメージがわからないと思う。可視化したものがあると良い。関わっていない方に見える形でお示ししたい。

委員長：ビデオなどもわかりやすい。事務局でも検討してほしい。それぞれの部会から、こんなものを出したいという意見もあると思うので、事務局で調整してほしい。

事務局：本日、欠席委員もいるので、メール等で確認後、あらためて連絡したい。

委員長：次回については5月31日を確定日として考え、それ以降については変更の場合も考えられるが、ひとまず日程をおさえておいてほしい。

以上をもって、第2回第三次西東京市地域福祉活動計画進行管理委員会を終了する。